

令和
6年度

COMPASS 発達支援センター丸亀 NEXT

事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	COMPASS 発達支援センター丸亀 NEXT
○保護者評価実施期間	令和6年9月9日～令和6年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 39名 (回答者数) 39名
○従業者評価実施期間	令和6年10月25日～令和6年10月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 7名 (回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月4日

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門職が2名居るので、作業と理学の2つの分野の専門的療育を受けることができます。 ・職員間で話し合い、一人ひとりに必要な専門的支援を取り組んでいます。 ・分からない所はリフレクション会議などで話し合い、職員全員が理解できるようにしています。	運動療育は、活動の特性上、事故やけがのリスクを伴う場面もあるため、安全面には十分配慮し、必要に応じて補助や声かけを行っております。	同じ活動内容が続くと児童が飽きてしまうため、定期的に運動内容を見直し、活動がマンネリ化しないよう工夫しております。
2	作業療法士と理学療法士の2名の専門職が在籍しており、児童のニーズに応じて、異なる専門性を活かした療育支援が可能な体制を整えております。	職員間で話し合いを行いながら、一人ひとりに必要な専門的支援を検討し、個性を大切にされた対応を行っております。	支援にあたって不明点が生じた場合は、リフレクション会議等で話し合い、職員全員が共通理解を持てるよう努めております。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ワンフロアの構造のため死角は少ないものの、運動をしている際の声が聞こえることで、学習に取り組んでいる児童にとっては集中が難しい場面もあります。	これは事業所の構造上の課題によるものであり、環境の使い方を工夫しながら対応しております。	集中の持続が難しい児童に対しては、パーテーションを設置したり、カウンターで学習できるスペースを活用するなど、学習に適した空間づくりを行う必要があると考えております。 運動スペースと学習スペースは可能な限り分けて配置しており、音に敏感な児童についてはイヤーマフを持参して、自身で音を調整できるような配慮も取り入れております。
2			
3			